

科目区分：教職専門科目
 授業科目名：初等音楽科教育法

初等音楽科教育法

音楽教育講座：楠 俊明

1. 授業の目的

授業の目的は、「音楽教育の歩み、目的、内容、学習材、学びの在り方等について基礎的な知識を得ることによって、学校教育における音楽科教育の位置づけや意義について理解する。さらに、小学校の音楽の授業を展開するための基礎的な知識・技能を身につける。」である。

2. 授業の到達目標

- 音楽科教育の意義・目的・内容・学習材の在り方等についての基礎的な知識について説明できる。
- 音楽科の授業づくりにおける学習材研究を行うことができる。
- 実際に音楽の授業づくりをおこなうことができる。

3. 授業のスケジュールと位置づけ

- ① ガイダンスとグループ分け
- ②～⑤ 学習指導要領、指導案、授業づくり教材等の講義及び音楽表現練習
- ⑥～⑫ 模擬授業
- ⑬ 授業の振り返り
- ⑭ テスト
- ⑮ 考察とまとめ

上記の15回のスケジュールで授業を行うが、150名を越す大人数と附属小学校での音楽の実習内容を踏まえて次のように授業を進めた。

- 音楽の授業づくりのためにグループで全学年の模擬授業を行う。
- 実習での5分間授業（実習生一人が必ず児童の前で一曲5分間の歌唱指導）があるために、必ず一人1回はみんなの前で指導者として授業を行う。そのために、模擬授業をしないグループは5分間授業を行う。
- 5分間授業は講義の前後や空いている時間に協力して行う。
- 子どもとの出会いの場では全員が子ども前での独唱があるために、毎時間歌うこと

欠かさない授業展開を進める。

これらことを踏まえて次のようにグループ編成と模擬授業及び5分間授業のスケジュールを組んだ。

番	グループ名	班員（○リーダー）	模擬授業等
1	枝豆	○宮下 前田 中角 西山	1年 5/24
2	2班	○小西 和田 山崎 藤原	5分 5/10
3	かいわれ大根	○滝野 江下 岡崎 羽藤	5分 5/10
4	team 小山	○小山 山村 島田 大島	5分 5/10
5	ちんぷ	○木下 藤原 池田 神村	5分 5/10
6	体研部屋	○鈴鹿 佐田 高田 森谷	5分 5/17
7	チーム入江	○入江 上本 猪野 山本	5分 5/17
8	BLUE	○時重 空林 近藤 齊木	2年 5/31
9	leg ゴリラ	○山本 矢野 長谷川 吉本	5年 6/21
10	春休み♪	○阿野 大谷 杉田 田窪	6年 6/28
11	ガマガエル	○小倉 中島 日野 湯浅	5分 5/17
12	6分の4	○西田 山口 土居 大野	2年 5/31
13	トマト	○土本 道分 西岡 岡本	5分 7/5
14	ゴーヤ	○倉本 宮崎 内田 山口	5分 7/5
15	チーム一文字	○一文字 上利 村上 井門	5分 7/5
16	CITIZEN	○重松 近藤 権名津 寮	5分 7/5
17	上辺	○横掛 石丸 田口 田島 岡田	3年 6/7
18	じゃんけんばい	○今井 東 橋元 藤田	5分 7/12
19	G4	○農間 寛金 井上 船越	5分 7/12
20	四分音符	○義田 大石 山田 渡部	5分 7/12
21	Mi	○古谷 吉田 栗原 若林	Free 7/5
22	GIZ	○中村 越智 村田 寺井	5分 7/12
23	meat	○浅川 岡田 明地 光畑	5分 5/17
24	チーム小出	○小出 橋原 渡木 松浦	3年 6/7
25	おせち	○山崎 下出 藤井 森	5分 7/12
26	チーム5人	○重森 濱本 吉田 高野 瀧口	5分 7/5
27	チーム特支	○林 大森 佐浦 三辻	1年 5/24
28	山本理佐子	○山根 横田 坂本 山崎	5分 7/26
29	チーム自宅生♪	○室津 三好 神野 相田	4年 6/14
30	ホグワーツ再履修	○横山 中塚 矢野 大田	4年 6/14
31	仙波組	○仙波 枝廣 近藤 伊藤	6年 6/28
32	ドレミ	○井上 渡部 三好 高橋	5分 7/26
33	チーム早起き	○浅野 高岡 島 桐石	5分 7/26
34	チームショート	○浅野 峰山 富田 石田	5年 6/21
35	グループS	○大窪 玉井 大西 山本	5分 5/17
36	ちゃんこも	○古茂田 玉井 近藤 池田	5分 7/26
37	欠席組	○川口 加藤 大野 小松 源	5分 7/26

上記の表の学年は模擬授業を実施する学年を表しており、フリーはどの学年を行っても良いということで、模擬授業と5分間授業の計画ができた。学生にはリーダーを中心に自分のグループの授業までに、模擬授業グループは指導案、5分間授業グループは指導目標を仕上げ、協力体制を考えて授業を迎えるように指示をした。

4. 授業のポイントと実際及び評価

①時間目の授業では前述のグループ分けとオリエンテーションを行った。全員に音楽経験や音楽科教育のアンケートを実施し、個々の実態を把握した。

②～⑤時間目の授業では音楽科教育の意義・目的・内容・学習材・学びの在り方等についての基礎的な知識の学習を行った。そこでは、実際に共通教材を使って5分間授業を実践し、指導の在り方等について考えさせた。

アクティブラーニング的な授業にするために④時間目の授業からはこれらの学びの前に5分間授業を実践させ、学生が学びの中心となるように授業を展開した。

5分間授業を終えての学生の感想である。

5分間授業をするに当たって気を付けることがわかった。踊りや手拍子などを取り入れる場合は、それが歌うことにプラスになるように気を付けなければならない。

5分間授業を見て二つのことを思った。一つ目は、5分間授業の中にあまりたくさんの要素を盛り込まないということだ。手拍子や足踏み、隣の人とタッチなど、3つも盛り込むと全て中途半端になってしまうということがわかった。二つ目は、先生自身が大きな声で歌うようにするということだ。

5分間で授業をするというのは、時間が短いので内容をきちんと考えないと難しいのだなど他のグループを見て思った。

多くの学生が、仲間の5分間授業を体験して自分の授業に生かそうとしていることが把握できた。そのため、5分間授業は授業が進んでいく内に学生が自分の個性を生かして展開を工夫することができるようになっていった。

⑥時間目の授業からは、30分の模擬授業と10分の授業研究を2本ずつで進めていった。学生の授業研究の後に、指導案の書き方、授業展開の方法、目標と授業の流れ、評価の在り方、指導者の位置や音楽表現等について助言を与え、模擬授業の内容が段々と深まるように工夫した。授業が終わってからも、授業者からの質問とがんばりの声を聞くことができた。学生は真剣に模擬授業に臨んでいることがわかった。また、次の授業の質問に来る学生たちも見られ、模擬授業への取組は深まっていった。

次は、それぞれ模擬授業後の学生の評価である。

⑥時間目 1年生

からだを動かす時間が多く、1年生らしい構成だと思った。導入から楽しくて、学級のみなどとの交流がうまくできて良いと思った。しかし、歌自体が曖昧でぼんやりとしたまま活動に入ったので、ポイントだけでも指導があるとよりよい授業になると思った。

貼る物が見やすく、黒板を見るだけで授業の流れや、今何をしているかがパッとわかってよかった。静かにするための工夫もあり真似したいところがたくさんあった。

⑦時間目 2年生

先生が笑顔で授業の雰囲気良かった。授業をするとき、児童の意識を集めることが大切だと思った。目当てでは曲のイメージを歌で表現しようと言っているが、今日の授業はリズムを学ぶことが主になっていたと思う。目当てにあった授業で主とした活動が行えるように、時間配分を工夫する必要があったと思う。

授業をしてみて、子どもの反応がわからない中で柔軟に対応することが非常に難しいと思った。

⑧時間目 3年生

歌うときに休符やブレスなどの注意をするなどの説明ができていた。また、語句の意味の説明がとてもよかった。しかし、先生方には、まだ恥じらいが見られた。それを改善すれば良い授業になるのではないかと感じた。

全員元気で笑顔で歌っていた。子どもにもその影響が出ていた。子どもに「こうして欲しい」と思うなら、まず自分たちがリードしてお手本となるように積極的な姿勢でいることが大切だと思った。歌詞を上の方に表示しており、下を向かず子どもが上を向いて歌うことができていたので、自分も真似させていただこうと思う。また、子どもの声が小さくなったらリードするように、子どものモデルとなっていた。

⑨時間目 4年生

先生たちが率先して声を出しているのがよくきこえた。気を付けて欲しいことや直すところなどの指示が明確で、とてもわかりやすくして下のパート指導も順番に行っていたのが良かった。また、音の重なりについてのワークシートの際、PC画面を使って全員にわかるよう共有できていたのは、視覚的にとてもわかりやすかった。1曲の教材を深くまで指導できていた。

歌詞の意味について手話も交えながらじっくりと考えることのできる授業だった。ただじっくりと考えすぎてあまり歌う時間がとれないと、音楽の授業なのに音を味わう時間が少ないのでバランスも大事だと感じた。

⑩時間目 5年生

伴奏のピアノがすごく上手でよかった。スムーズに歌うことができ、集中できて良いなと思った。ワークシートが工夫されて良かったが先生の話す時間が長いなと思った。

二つのパートに分けて歌うとき、一回ごとにコメントやアドバイスがあると、次歌うときにもう少し意欲的に歌えるかなと思いました。歌う姿勢、音程の取り方、強弱について自分たちなりに考えていることを感じ、良いなと思いました。教師からの指導が多めだと思った。

⑪時間目 6年生

授業を受けて、難しい教材を時間内に納めているなと思った。一方、ところどころ止まる時があったので気を付けた方が良かった。また、最初しばらく座学のような時間が続いたので何か活動を行ってからの方が良いと思った。

とにかく緊張してピアノを失敗してしまいました。いつも間違えないところでミスをしてしまって、焦って全然駄目になりました。もっと色々な想定をして練習すべきだったと反省しています。一度失敗したら気持ちが吹っ切れて気持ちが落ち着いたので、この失敗を生かして頑張りたいです。

⑫時間目 フリー

模擬授業をやってみて、授業の流れをつかむことの難しさを感じました。児童から引き出した感想のフィードバックを「いいね」だけじゃなくて、その時に応じて適切なアドバイスをすることが大事だと痛感しました。また、指導案や授業構成を考える中で綿密な事前準備というものがいかに大事なことわかりました。また、ストーリー通りではなく臨機応変に対応していく力を身に付けたいです。実習ではどんどん力をつけていきたいです。

模擬授業を終えて、学生たちがそれぞれの課題を持って成長していることを感じ取った。特に、後半ではわたくしの助言内容と学生の授業研究の指摘事項が少しずつ重なるようになり、授業の在り方を理解していったと思っている。

⑬時間目はこれまでの模擬授業を振り返りながら、音楽科の授業の在り方について整理していった。そして、3グループを一緒にして歌の発表会を実施し、それぞれの良さや改善点について考えさせた。⑭、⑮時間目はテストとまとめである。思ったよりもよくできており、講義型の展開をを少なくした授業の在り方についてさらに考える余地があると思っている。150人という多勢を生かす授業について研究を続けていきたい。

5. 地域（附属）とのつながりと時間外学習

前期でこの授業を終え、学生たちを附属小学校の実習に送り出したが、今年はもう一つ自分のこの授業を見つめ直す機会ができた。それは、附属小学校の都合で実習中の小学校の音楽の授業をわたくしがすることになったのである。

学生の半分であるが、わたくしの授業に観察に来る。そして、独唱もするし、5分間授業も行う。さらには、研究授業まで行うことになった。

わたくしは2年前まで附属小にいた。そのときは学生は何を学習して実習に来ているんだろうと思いながら、実習指導を行っていた。今度は、自分の授業を受けた学生の実習を見ながら授業をするという場に巡りあったのである。まさに自分授業の評価そのものである。

毎日、学生と挨拶を交わしながら、音楽の授業を行い、学生の指導をする。学生個々の様子が本当によくわかった。前期のこの授業とは違う顔を見せる学生、実習が進むにつれて成長していく学生、悩みながらも頑張っている学生等、多くの姿を見つめることができた。もちろん、これらは音楽の授業だけで成立しているわけではない。附属の先生方の温かいご指導と学生の前向きな学びのお陰である。

しかしながら、音楽の授業を生かした学びと「音楽の力」を感じたひとときがあった。それは学生と子どもとの離任式である。

離任式では子どもの前で代表者が謝辞を述べる。しかし、わたくしは毎日学生と会っているため、その謝辞について少し工夫をするように求めた。学生は賛同し、謝辞の後、全員でお礼の歌を歌うことになった。曲目は学生たちが考え、「栄光の架け橋」になった。

離任式は最終日の月曜日である。学生のほとんどが、土曜日に大学で学級のお別れ会の準備をしていた。そこで、わたくしは楽譜を用意し、代表者と曲のカットの打ち合わせをして学生たちに学級ごとに練習しておくように指示をした。月曜日の朝、一度練習をすることにした。

月曜の朝当日、7時半に全員が集まった。素敵な歌声で練習する学生たち。そこでの学生の声と顔から何か良い予感がした。離任式では、代表者の謝辞の後、学生たちは素敵な歌声で「栄光の架け橋」を歌い上げた。そこに「音楽の力」とこの授業の成果が表れたのである。多くの学生が涙を一杯にして一生懸命歌ったのである。本当に感動的な場面に遭遇した。長い間、わたくしは附属小学校に勤務していたが、各学級でのお別れ会ではほとんどの学生が感涙するが、朝の全体の離任式でこんなに学生が泣いて歌ったのは初めてである。

その後の子どもたちのお返しの歌声も素晴らしく、司会の主幹教諭から学生が心からの姿と歌声を披露してくれたので、子どもたちの気持ちも高まり、素敵な離任式でしたと、お礼の言葉をいただいた。学生たちが「音楽の力」を体感できたことに本当に感謝する。もちろん、わたくし自身も「音楽の力」を見つめ直す機会となった。

6. まとめと考察

学生が「音楽の力」を感じ取る経験ができたことが本授業の成果である。多くの学生の涙は本物であった。

今年は、偶然にも指導した学生を実習でも指導する機会を得た。大変であったが、これの経験を基に来年度からのこの授業の在り方について考えていくことができた。

学生のアンケートから学生の理解度として不足していることは次の内容である。

音楽の楽典的な内容
楽譜を読む技能
ピアノ伴奏をする技能
授業での子どもの反応を生かした展開

この「初等音楽科教育法」の授業だけで、これらの内容の理解度や技能を高めることは難しい。2回生での「初等音楽」の授業や他の時間を考慮してその連携を考える必要があると感じた。

学生を中心においた、学生の課題意識による授業の在り方をさらに深く考えていきたい。「音楽の力」の素晴らしさを体感して教師になって欲しいからである。